

講師
桜美林大学教授
瀬沼克彰

1 7年振りに岡山に来てみて、今何かが起きているのではないかと思つた。それは、新幹線「のぞみ」の乗客が岡山駅でほとんど下車して残りわずか数名という現象が何を意味するのか、これは岡山にとつて何か新しいことが起きている前兆で、現在は「タイムラグ」の時期ではないかと思える。その重要なインパクトの一つは、当地の持つポテンシャルであろうし、また「まちづくり」にかけるパッションであると思つている。

2 「21世紀は生涯学習社会」と言われており、生涯学習の重要性はますます高まってきた。当地は生涯学習とい



う戦略によって、まちづくりを行つて欲しいと思う。その推進に当たっては方法論が重要で、今後、主体は従来の行政主導から住民・民間主導(行政は支援)へ、

マになる。生涯学習の実践は、まず動機づけ(何が好きか)、次に仲間づくりと良き先生の指導、そして継続することによって

経済的条件の重視(工業団地等)に、そして現在は文化的条件(歴史文化の掘り起こし等の学習・文化活動)の重視とモノからココロへと変遷している。文化の定義は約300種類あるが、類型化すると「伝統文化」と「現代文化」に分かれ、「現代文化」は「大衆文化」(映画や音楽等)と「個別文化」(若者ファッション等)として「地域文化」(祭りやイベントなどの生涯学習活動等)に分類できる。

ものである。更に付け加えるならば、外部へのPRの徹底と「ハードは行政、ソフトは民間・住民」の鉄則を守ることである。

4 最後に梅棹忠夫氏の「教育・学習は人力(インプット)、出力(アウトプット)が文化」との名言があるが、福武財団は教育振興と文化振興を目的とした二つの財団があるので、両財団の連携は地元岡山の「生涯学習とまちづくり」にも大きなインパクトを与えるはずだと思つた。

第2回 教育・文化講演会(要旨) 21世紀の生涯学習とまちづくり

平成10年2月25日(水) 岡山プラザホテル

そ「余暇時間」を創出して、労働の流動化が激化する時代に備え、転職できるような自分の専門性を高めるためにも、生涯学習は極めて重要なテーマになる。

3 次に「まちづくり」は、利便性の追求と文化性の追求である。歴史的にみると、自然的条件の重視(植生等)から

「まちづくり」はこれらの幅広い文化に関連する「行動する市民」による生涯学習活動と言えらる。「まちづくり」の重要な戦略はまずシンボルを発見することである。次はそのシンボルの具現化と事業化であり、そのためには実現性のあるかつ納得性の高い「事業計画書の作成」が非常に大切であり、これがその後の運命を左右すると言つても過言ではない。なお、経験から強調しておきたいことは、やる気と強固な組織づくりができ

私も大きな期待をしていると同時に今後の御発展を心からお祈りしている。

(文責 長尾 俊男)



(財) 福武教育振興財団 平成10年度 助成募集の概要

教育研究助成、図書館助成

1 目的
教育方法及び教育内容などに関する実践的研究を助成し、主として学校教育の発展に資することを目的とします。

2 研究種別
課題研究
自由研究(右記以外)

- ① 郷土理解 ② 環境教育
- ③ 個性を生かす教育
- ④ 地域及び家庭の教育力
- ⑤ いきいきとした読書活動
- ⑥ 授業に生きる学校図書館
- ⑦ 情報活用能力をつける学校図書館
- ⑧ 「生きる力を育む教育」への取り組み
- ⑨ どの子にも居場所のある学級・授業づくり

3 応募資格
岡山県下の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特殊教育諸学校、専門学校の教職員及び教育委員会の所轄に属する教育研究機関の職員及びこれに準ずるもので、個人またはグループ。

4 助成件数・助成額
教育研究助成は36件程度とし、総額720万円。図書館助成は19件程度、総額380万円。図書館助成では図書を購入を助成額の1/2まで認め

教育研究大会等助成

1 目的
教育方法及び教育内容などの研究発表の場である教育研究大会等の開催を支援することにより、主として学校教育の発展に資することを目的とします。

2 対象・助成額
教育研究大会等を主催する教育研究団体を対象とし、助成額は1件の上限15万円、総額200万円。

応募方法

財団所定の申請書により応募してください。

◎ 締切
平成10年5月31日
(当日消印有効)

◎ 審査・決定
審査委員会等で審査し、理事会で決定、6月末までに通知します。

問合せ先 財団事務局
(086) 231-1525 四

がんばっています

つづのやま
岡山市立角山小学校(近藤 忠志 校長)
ホームページ <http://www.harenet.or.jp/tunoyama/>

きらりかがやく子の育み

平成9年度(財)福武教育振興財団の教育研究助成を受けた近藤忠志校長の「生きる力を育む授業の創造」を主題とする研究は、創立125年の歴史と伝統に裏付けされた同校の学校ぐるみの取り組みとなって見事に花開いていた。

表題は新しい教育実践の先進校である千葉市立打瀬小学校の研究からヒントを得たと聞くが、一人ひとりの児童が自分というものをよく理解し、教えられるのではなく、自ら学ぶ取る学習を目指した意図の表れで、その具体的な試みの一つ、総合的学習の授業を参観させていただいた。

バリアフリーな学習(総合的学習)

「われら地球防衛隊」をテーマとする5年生のこの授業は、田中喜一郎先生の綿密な計画と準備により、また、児童たちの積極的な取り組みによって、11時間の計画のうち9時間目に当たる授業は、正に児童主導ともいえるもので、よくぞここまで、という感を深くした。総合的学習は、教科、特別活動、道徳のほか、これらの枠を外して一つの学習テーマを総合的、横断的に探求していくというもので、2002年から全国で実施されるが、その先取りともいえる授業を見せていただいたのは驚きであったが、後で同校のこれまでの長年の教育実践や数々の受賞の記録を読んで、なるほどと納得するとともに、改めて近藤校長はじめ教職員の皆様に敬意を表したい。(須賀)

平成10年2月27日訪問



インターネットで調べ学習